

令和5年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 グループホームひだまり

施種種別	認知症対応型共同生活介護
定員	9名
開設日	2011年4月1日
所在地	岩手県久慈市

手順01 改善活動の準備をしよう

- 生産性向上の取組を推進するにあたって、プロジェクトチームをつくる。
- 現場担当者に任せるだけでなく、経営層も関与。
- 経営層から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- 40%の職員が休憩や仮眠が時間通りできていないと感じている。
- 50%の職員が心に余裕がないと感じている。
- 60%の職員が常に業務に追われていると感じている。
- 60%の職員がテクノロジーの活用がうまくいっていないと感じている。

夜間業務は精神的にも身体的にも負荷が高いため、「夜間業務とセンサー対応の改善」を改善テーマとした。

手順03 実行計画を立てよう

導入したテクノロジー

眠りスキャン
(デモ)

夜間業務とセンサー対応の改善

1

夜間業務の見える化

- 現在の夜間業務における工程、役割、時間等をリーダーが見える化。
- 職員と対話し、周知後運用。

2

現在のセンサーの見える化

- 現在のセンサーの設置状況、優先順位等をリーダーが見える化。
- センサー対応の基準ルール、アセスメントシート の運用。

3

見守りカメラのデモ導入準備

- メーカーによる説明会の実施、カメラ設置者決定、カメラ設置。

手順04

改善活動に取り組もう

～工夫した点～

夜間業務とセンサー対応の改善

導入したテクノロジー

眠りスキャン
(デモ)

1

夜間業務の見える化

- 夜間の巡回業務 1 週間の合計で752回、882分訪室している。(そのうち目視は703回)
- 特定の利用者への巡回をなくした。センサー対応と体位変換を巡回をみなした。

2

現在のセンサーの見える化

- センサーの音、優先順位等をマニュアル化した。

3

見守りカメラのデモ導入準備

- 呼吸の確認が必要な利用者には呼吸と心拍数を測定することができる見守りカメラをデモ導入。

手順05

改善活動を振り返ろう

訪室回数（巡回、センサー、カメラ）

取組前



取組後



訪室回数が590回少なくなった

訪室目視後に何らかの対応が発生した回数

取組前



取組後



54回少なくなった

訪室回数の減少

目視後の対応減少

利用者が増えたが、循環業務を改善した結果しんどさが軽減した。

眠りスキャンをデモ導入し、カメラで様子を確認し訪室がいなくなったので楽になった。

手順06

実行計画を練り直そう

私たちは「心を込めてケアさせていただく」「心の通い合うケアをさせていただく」「感謝と尊厳の心でケアさせていただく」という「心」を大切にすることを理念としている。想いや心はテクノロジーとかけ離れたように感じるが、テクノロジーを活用することで職員の身体的負担や心理的負担が軽減され、気持ちに余裕ができることで関わりに変化が生まれた。「心」をプラスに動かすことでより良いケアに結びつくことを体験した。また、この経験を得たことで、「自分たちにできることは何か」を考える機会にもなった。

- 利用者さんと一緒に幸せになれる施設を自分たちでつくり、ひだまりで暮らしてよかったと思ってもらえるケアを目指していく。